

令和元年度 家庭の教育力に関する調査結果

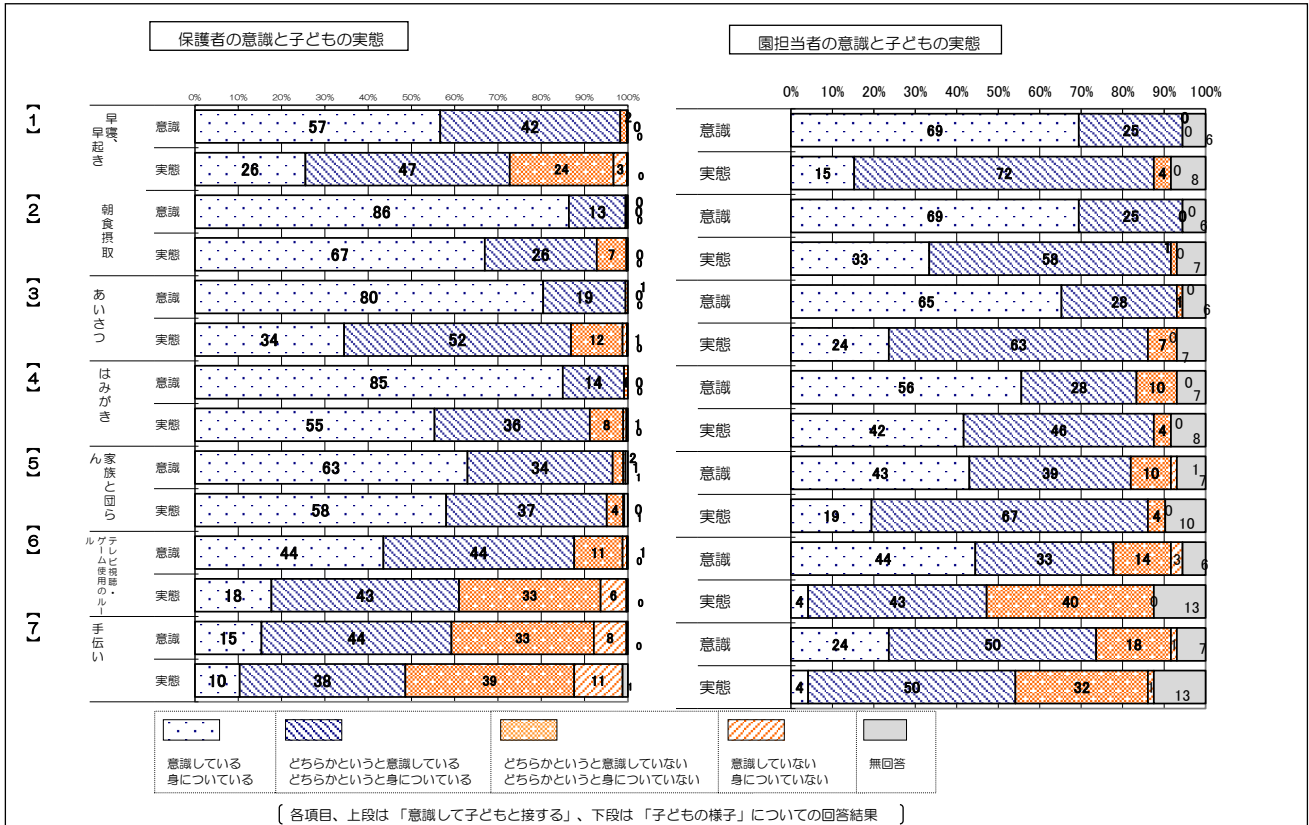
～令和2年2月実施～

・・・7項目についての意識と実態・・・

市内の保育園・幼稚園に在席する年長児の保護者・園の担当者を対象に、右の7項目について、
 ① 意識して子どもと接しているか
 ② 子どもの様子はどうなっているか
 という設問で、アンケート調査を実施しました。
 46園、約81%の保護者から回答が届き、以下のような結果となりました。
 新型コロナウイルス感染症対策のため、登園を自粛される家庭もあり、回収率が例年よりも低くなっています。

<調査項目>

- 【1】 早寝、早起きをする
- 【2】 朝食をしっかり食べる
- 【3】 あいさつをする
- 【4】 歯磨きをする
- 【5】 家族と回らする
- 【6】 テレビ視聴・ゲーム使用のルールを決めて守る
- 【7】 手伝いを決めて毎日行う



・ 回答結果か

- ・ 「どちらかという身についている」まで含めて7項目を平均すると、77.8%の保護者、77.7%の担当者が、子どもに身についていると捉えている。(担当合わせた平均は、77.75%)
- ・ 基本的な生活習慣の定着状況に絞ると、【1】【2】【3】【6】の4項目を平均すると78.4%の保護者、78.1%の担当者が、子どもに身についていると捉えている。(担当合わせた平均は、78.25%)
- ・ 子どもの実態の捉えでは、「どちらかという身についている」まで含めると、保護者と担当者では同じ傾向にある。
- ・ テレビ視聴・ゲーム使用のルールは、意識して取り組もうとしている保護者が増えてきているが、身についていないと捉える保護者が多い。(身についていると捉えている保護者：61.0%)
- ・ 「手伝い」について、他の項目と比べ大人の働きかけが弱く、実態も子どもに身についていないと捉えられている。
- ・ 保護者から見た子どもの実態における肯定的回答(「身についている」)での比較では、回らんが95.1%と高く、次いで、朝食摂取、歯磨き、あいさつとなっている。
- ・ 早寝・早起きの項目では、意識してかかわっている保護者は多いが約1/4の保護者が身についていないと捉えている。
- ・ 記述から、共働きや核家族が増える中、子どもとのコミュニケーションを大切に、親子で共に成長していこうという思いがうかがえた。

・ 今後の課題・

- ★「家族でニコニコチャレンジ」は、継続し、家族での取り組みを促していく。
- ★基本的な生活習慣の必要性を具体的に示し、家族との回らんの中で話題にしてもらう等、啓発していく。
- ★手伝いの実施については、「自立心の育成」「親子でのふれ合い」といった観点から重視し、手伝いの大切さについても発信していく。
- ★関係機関と連携し、家庭の教育力向上への取組(子育て講演会等)を継続していく。
- ★メディアの使用等については、メディアの利用・活用が重要視されている社会であることを踏まえつつ、使用ルールを家族で決め、守ることの大切さを発信していく。
- ★「ニコニコせんせい体験」や「ニコニコガイド」等活用し、幼児期に必要な資質・能力を保護者と共有できるようにする。